

日本セキュリティ・マネジメント学会
会長 佐々木 良一 殿

2010 年度学会賞審査委員会

大内 功（研究部会会長）

大曾根 匡（同 副部会長）

力 利則（同 副部会長）

松浦 幹太（編集部会部会長）

三品利郎（常任理事・常任理事会推薦推挙）

山本明知（国際部会部会長・常任理事会推薦推挙）

委員長 能勢 豊一（副会長・常任理事会推薦推挙）

2010 年度学会賞論文評価結果

推薦論文名：SNS 上のテキストからプライバシー情報を検知するシステムの構想と予備評価

推薦論文著者：電機通信大学 渡辺夏樹、

日本電信電話株式会社 片岡春乃、

電機通信大学 内海彰、

電機通信大学 吉浦裕

本年度の審査は、JSSM 学会誌 Vo. 23, No. 1, 2, 3 に掲載された 6 件の対象論文を対象に、4 月 1 日から 5 月 17 日の 1 次審査期間（実際には 5 月 25 日までの 1 次審査期間となった）を経て最終審査日を 5 月 25 日に設定し、学会賞運用内規第 3 条に従って実施いたしました。

1 次審査にあたりましては上記 7 名の学会賞審査委員によって、以下の 5 点を基準に評価結果を大内研究部会長のもとで集計していただきました：

①現状を的確に把握し、本論文の位置付け、目的、必要性が明示されているか（5 点）、②論文の仮説が明確かつ適切であるか、目的に沿った仮説になっているか（5 点）、③仮説の検証が十分になさしているか、検証不十分な所は無い（5 点）、④論文の構成が、論理的か、適切に展開されているか（5 点）、⑤その他、論文の新規性への評価、評価できる事項、懸念される事項の有無。

その集計結果をともに、最終審査は月 25 日（水）16：00～17：30 東京電機大学 11 号館 10 階 1010 室にて 7 名の審査委員のうち 4 名が出席して実施しました。この審査会では、検討対象となった 6 件の論文の中から 3 件の論文を、①総合獲得点数、②総合獲得点数において最高得点を獲得した審査委員数、③個別評価項目 5 項目の中で獲得した最低点の数が少ない、という基準で選考しました。さらに、各委員からの評点平均のバラツキについての影響を確認するために、各委員ごとの総合評価値を順位にして集計しましたが、6 件の論文から選ばれたのは同じ 3 件で、しかもその順位も同じ結果になりました。その後、内容について出席の審査委員でフリーディスカッションを行い、標記その結果、標記の論文を 2010 年度学会賞受賞論文として推薦することに決定しました。

推薦理由：

この論文は、検討対象となった6件の論文の中で、①もっとも獲得点数が高かった、②最高点をつけた審査委員数が最も多かった、③上記の4つの評価項目の中で獲得した最低点を獲得した数が最も少なかった、さらに順位評価についても最も順位が高いことと各先生からのデータから最低順位の評価を1件も得ていなかったという点でした。

論文の内容としては、「ネットワークの大衆化とともに、ブログやSNSにおいて今後ユーザのプライバシー問題が社会問題となっていくことに対して、文字データを検知してプロアクティブにリスク発生を抑えようとする情報処理システムを提案したものである。情報セキュリティの確保はネットワークの利用者がより安心して利用できる環境整備に役立つ研究成果として評価できる。この研究姿勢は安心・安全を追求する日本セキュリティ・マネジメント学会の理念にふさわしい内容であるとともに、論文としての完成度が高く、時宜を得た論文として評価します」ので、学会賞審査委員一同、標記論文を2010年度学会賞論文として推薦いたします。